

平成 29 年度 (2017 年)

日本声楽発声学会

第 106 回例会

平成 29 年 11 月 26 日 (日)
9 時 55 分 ~ 16 時 30 分 (受付 9 時 30 分より)

東京藝術大学音楽学部
大講義室 (5-109)・第 2 ホール
(JR 上野駅公園口より徒歩 10 分)

(お願い)

- ① 携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

(なお、本学会では記録用として録音録画はしますが、それ以外は個人のプライバシー保護のため、厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。)

日本声楽発声学会 第106回例会

錦秋の候、皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。今回の例会プログラムは、恒例の会員による研究発表で日頃のご研究の成果を発表くださいます他に、8月22日に行われました夏季研修会の「歌の集い」のレクチャーと演奏をして下さいました山田実先生（本学会相談役）が、未発表の部分と多方面から長年の研究をご提供くださいます。特別講演では、オペラ演出家の立場から歌手への要望、現役声楽家の演奏とお話では、現在演奏家邁進中のご演奏とその提言をお聴かせくださいます。充実した研究の場となりますことを願っております。多くのご参加をお待ちいたします。

会長 永井和子

総司会

竹田数章

開会挨拶 9:55~10:00

会長 永井和子

A. 研究発表：10:00~12:00 (5-109 大講義室)

司会 西浦美佐子

① 10:00~10:30

重田敦子（重田敦子発声研究所代表・本学会理事）

「マリアの呼吸法 Atem-Tonus-Ton における歌唱者の体験的实践からみた一考察」

② 10:35~11:05（共同研究発表）

田村邦光（工学博士、音楽に寄す会主宰、久喜市歌声教室講師、本学会正会員）

河合孝夫（河合孝夫音楽研究所所長・本学会理事）

「声楽発声の母音フォルマントと会話フォルマントの比較」

③ 11:10~11:40

山田実（桜美林大学名誉教授・学芸博士・声楽家・本学会相談役）

「Pronunciation vs. Diction：歌手の発語法～発音と発語の相違」

<11:40 ~ 12:00 質疑応答>

~~~~~  
- 昼食 -

昼食は、藝大美術学部レストラン「大浦」をご利用ください。

なお、申し込みにつきましては6ページをご覧ください。  
~~~~~

B. 特別講演： 13：00～15：00 （会場：第2ホール）

司会 豊田喜代美

講師：中村敬一氏（なかむらけいいち 演出家）

講演テーマ

「歌うことと演じること どこで、その接点を見いだすか？」

「舞台上で求められる演技と発声に必要なフォームとのバランスをどうとるのか？」

講演概要：

オペラの舞台でも、色々な演出、演技の求められる時代となってきた。それだけ、歌い手に色々な要求に応えるだけのポテンシャルとテクニックが求められると云うことでもある。しかし、いまだにオペラの現場ではオペラでの演技の本質や在り方が関わる出演者とスタッフの間で了解されているとはいいがたいし、どこの教育現場でも、演劇の演出家が演技指導をしたり、あるいは芝居の役者が演技の指導をするが、そのことと発声や歌うこととの共存やバランスが明確に理解されているとはいえない現実がある。演出家の求めるリアリティーとオペラの持つ様式が、未整理のまま舞台上に繰り広げられている現実を目の当たりにすることもしばしばだ。

今回の特別講演では、実際の若い歌手の演唱に演技を付ける作業をしながら、歌唱表現と演出の表現がどのように作用しあい、どのように高めあえるかを考証し、視覚的な表現と聴覚的な表現の関係について、また、声楽家がどのように演技と歌唱を両立させて舞台上に立つべきかについて言及する。

<中村敬一氏（なかむらけいいち）プロフィール>

武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、のち舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のもと演出の研鑽を積む。1989年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版《フィガロの結婚》、で、高い評価を得、二期会公演《三部作》、東京室内歌劇場公演《ヒロシマのオルフェ》、日生劇場公演《笠地蔵・北風と太陽》で演出力が絶賛され、1995年、第23回ジローオペラ、新人賞を受賞。2000年3月には新国立劇場デビューとなった《沈黙》が、高く評価され、2001年ザ・カレッジ・オペラハウス公演《ヒロシマのオルフェ》では、大阪舞台芸術奨励賞を受賞。オペラの台本も手がけ、松井和彦作曲《笠地蔵》《走れメロス》新倉健作曲《ポラーノの広場》《窓（ウィンドウズ）》などがある。国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。

演奏者

竹内伶奈（たけうちれな ソプラノ）：東京都出身。東京音楽大学付属高等学校を経て、国立音楽大学卒業。同大学院修了。幼少より約10年間、NHK東京児童合唱団

に所属。大学卒業時に卒業演奏会、東京同調会新人演奏会に出演。同大学院新人演奏会に出演。現在、二期会研修所マスタークラスに在籍。澤畑恵美氏に師事。

眞玉郁碧（またまいくみ ソプラノ）：福岡県出身。国立音楽大学声楽専修卒業、オペラソリストコース修了。同大学大学院声楽専攻オペラコース修了。現在二期会オペラ研修所マスタークラスに在学中。オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』でデビュー。オペラ『カルメン』、オペレッタ『メリー・ウィドウ』等に出演。声楽を福岡嶋敬晃、井坂恵、大倉由紀枝の各氏に師事。

児玉興隆（こだまこうりゅう バリトン） 国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業。東京音楽大学大学院声楽専攻独唱研究領域修士課程修了。声楽をこれまでに、井ノ上了吏、高橋啓三、篠崎寿、服部容子(コレペティ)の各氏に師事。現在、二期会オペラ研修所第61期マスタークラス在籍中。

大町彩乃（おおまちあやの ピアノ）：東京音楽大学ピアノ専攻ならびに同大学大学院伴奏専攻修了。ウィーン国立音楽大学においてマスタークラス修了。これまでにピアノを佐藤みのり、新井博江、草川宣雄の各氏に、伴奏法を山洞智、水谷真理子、服部容子の各氏に師事。2011. 4. ～2015. 3. までBS日テレ『それいけ！アンパンマンくらぶ』にてピアノのあやの先生として出演。錦織健プロデュースオペラ『後宮からの逃走』、東京芸術劇場全国共同制作『蝶々夫人』、第55回大阪国際フェスティバル2017バーンスタイン『ミサ』などのプロダクションに稽古ピアニストとして携わる。

演奏曲：

- W. A. モーツァルト 『フィガロの結婚』より 手紙の二重唱
- W. A. モーツァルト 『ドン・ジョヴァンニ』より 「あそこで手を取り合って」
- G. ドニゼッティ 『ドン・パスクワーレ』より ノリーナとマラテスタの二重唱 他

C. 現役声楽家の演奏とお話： 15：20～16：20 （会場：第2ホール）

司会 永井和子

講師： 今尾 滋氏（いまおしげる テノール）

講演テーマ： 「キャリア開始後の声種変更に対する演奏家の立場からの一提言」

講演概要： 声楽の勉強をする者の中には、稀にはあるが声種の変更を余儀なくされる者がいる。そのうちのほとんどは、勉強が十分進んでいない初学者に集中しているかも知れないが、生来音域・音色ともに中間的な性格を持つ声の持ち主もいるわけで、その様な場合は、勉強が進んでからの声種変更を余儀なくされることがあり得る。指導する側の立場に立てばこのような声は分類が難しく、神ならぬ身ゆえに完全に正しい判断をすることは至難と思われる。私が声種変更したのは更に遅く、キャリアを

開始してのちかなりの時間を経てからである。このような例は特にわが国では珍しいのではないかと思ひ、発端・学習上の苦勞・キャリアを積む上での苦勞といった私の経験についてお話ししたい。この経験にどれほど価値があるか分からないが、同じ様な境遇にある者の学びや、指導法の研究の参考になれば幸いである。

演奏曲目：

1. R. Wagner 《ヴェーゼンドンクの5つの歌》
1. 天使 2. とまれ！ 3. 温室にて 4. 苦悩 5. 夢
2. R. Wagner 《ヴァルキューレ》より
「父はわたくしに一振りの剣を約束した」
3. R. Wagner 《ヴァルキューレ》より 「冬の嵐は過ぎ去り」

ピアノ：古藤田みゆき（ことうだみゆき）

<プロフィール>

*今尾 滋

早稲田大学法学部卒業後、東京藝術大学大学院博士課程を修了。博士号取得。ブダペスト国際音楽コンクール2位。日本とヴェローナでR・ブルゾン氏のアンダースタディとして研鑽をつむ。文化庁在外研修員として渡伊。バリトンとして活動した後、《ヴァルキューレ》のジークムントでテノールとして再デビュー。その後《神々の黄昏》のジークフリート、《フィデリオ》のフロロスタンなどの諸役を歌う。ルネ・コロ氏のマスタークラスに参加。ヴァーグナー、R・シュトラウスを歌い、往年の名ヘルデンテノールから絶賛された。本年5月には新国立劇場公演《ジークフリート》においてS・ゲールド氏のカヴァーを務める傍ら、カヴァーキャストによるハイライトコンサートでジークフリートを歌い絶賛された。福島大学准教授。東京藝術大学及び国立音楽大学非常勤講師。日本音楽家協会アカデミー会員。サントリーホール オペラ・アカデミー、コーチング・ファカルティ。二期会会員。

*古藤田みゆき（ピアノ）

日本大学芸術学部音楽学科ピアノ科卒業。東京二期会、藤原歌劇団などで音楽スタッフとして経験を積む。1993年から2010年までサントリーホール ホール・オペラのチーフ音楽スタッフを務め、世界的な指揮者や歌手から厚い信頼を得た。国内外のコンクール、音楽祭、マスタークラスに招かれるほか、オーケストラ・パートをピアノ1台で演奏するオペラ全曲公演でも活躍。サントリーホール オペラ・アカデミー、コーチング・ファカルティ。

閉会挨拶

副会長 川上勝功

◎ 参加費

- ・正会員は不要です。（年会費未納の方は至急納入をお願いいたします。）
 - ・臨時会員6,000円（大学院生6,000円、大学生以下4,000円）
- *学生の方は、当日学生証の掲示をお願いいたします。

◎ 参加申込について

- ・正会員は不要です（昼食については下記の要領にてお申し込みください）
- ・臨時会員として参加される方は、参加費を下記の郵便振替口座に11月20日（月）までに納入してください。通信欄に、「11月例会参加費」と明記し、所属、紹介者、住所、氏名、連絡先を明記してください。当日の参加受付も可能ですができるだけ事前の申し込みをお願いいたします。当日受付で入金を確認させていただくことがありますので、振込受領書、または振込明細をご持参ください。なお期日を過ぎた場合は入金確認ができませんので当日申込・受付払いをお願いいたします。

振込先 郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

◎ 昼食の事前申込について（昼食弁当は、事前申込のみとなります。）

11月20日（月）までに事務局へFAX、E-mailのいずれかでお申し込みください。（電話での申込はご遠慮ください）。お弁当（お茶ペットボトル付）1,000円です。昼食は東京藝術大学美術部学部内レストラン『大浦食堂』をご利用ください。当日、受付でお支払いいただき、引換券をお渡しします。臨時会員で昼食お申込みの場合は、例会参加のお申込みの際の「振込取扱票」に書き添えてお申込みをお願いいたします。代金は当日受付時にお支払い下さい。

◎ 連絡先

日本声楽発声学会事務局（担当：安原）
〒215-0003 神奈川県川崎市麻生区高石4-11-14-409
Tel & Fax : 044-577-2037 E-mail : info@jars-voice.org

（ご案内）臨床音声学研究会東京
2017年11月25日(土)午後5時から午後7時。
場所は東京渋谷東急本店裏「呼吸と発声研究所」です。(http://www.att-yoneyama.com)
声楽発声学会会員で医師関係の人が中心に行っている研究会ですが、どなたでも参加はご自由です。参加費は1000円です。
参加希望者は氏名と連絡先を記載の上、11月19日までに竹田までお願いします。
(FAX 03-5313-3281、e-mail: CQN00234@nifty.ne.jp)
竹田数章 仙川耳鼻咽喉科院長